

新春に臨んでの感想

岡山県養鶏試験場長 川崎 晃

皆様新しい年を迎えおめでとうございます。

最近におけるわが国の畜産部門は、果樹などとともに注目すべき発展をみせております。

その中で養鶏の進展はここ数年来めざましいものがあり、飼養総羽数は1億2,000万羽を越え、総生産額も2,000億円にも達し、農産物の中でも米に次ぐ産額をあげ注目されております。しかし乍ら、最近の養鶏界の情勢は楽観を許せないものがあり、昨年は卵価安の飼料高で文字通りの有史以来の不況を呈し、本年は昨年の不況を受継ぎ決して楽観はできない状態であります。

このような不況を招きましたのは、多羽数養鶏による企業的経営の推進と、農業構造改善事業の主幹作目に鶏を取入れたこと、近代化資金の融資及び38年の高水準の養鶏景気に刺激された新進養鶏家の増加により飼育羽数が著しく増し39年の成鶏雌羽数は前年に比べ110~115%となり、産卵量は羽数の増加に加えて鶏の産卵能力の向上、飼養管理技術の改善等により前年に比べて113~120%の高い数値を示しました。しかし一方、消費は経済ののびに伴って伸展はしましたが、生産の増加にはとても追いつかなかったようであります。従って、過剰生産となり需要供給のバランスが破れ異常の卵価安を招きました。これに飼料価格の昂騰が手伝って、誰も予期しなかった状況を呈しまして。

しかし、養鶏人はこれにくじけずこの逆境に打勝って、この試練を踏台として前進しなければなりません。

養鶏生産物は食品として栄養的にすぐれ、しかも経済的であり、国民食生活の改善によりその需要は年毎に増加しており、養鶏は今後も進展し成長する産業であることは誰も疑うものはないと思います。

ここで採卵養鶏の現状をみますと、多羽数養鶏家の進出がめざましく、岡山県内において1,000羽以上管理しているものは400戸以上であろうといわれております。39年の不況により小羽数のもの及び養鶏でもやろうかという心掛けで始めたものは中止さ

れるでありましょう。その結果は背水の陣的経営のもの及び石にかじりついてという気概の者が残り、精鋭のみにより養鶏が進められ、従来の様相が一変されるでありましょう。従って、競争の激烈な時代が到来し、平々凡々では養鶏経営は有利に進められぬ状態になります。

この時代に躍進するためには健全、協力、前進が必要と考えます。

先づ健全であります。養鶏経営では経営の合理化という言葉が使われますが、これは健全な経営を意味すると思います。養鶏経営には技術、経営がそれぞれ多くの要素より構成されており、これらを人体の各臓器にたとえてはいかかでしょうか。各臓器が健全であれば体はおのずと健康で、能力を最大に発揮することができます。養鶏経営も同様でありましょう。各要素、即ち、鶏の素質即ち強健性、産卵性、飼料の利用効率がすぐれており、飼育環境、管理方法、衛生対策、飼料がそれぞれ合理的であって、経営の規模が適切であり、資金も借入、自己のバランスがとれており、その上、記録、記帳がうまくなされ、自己及び指導者の適切な診断が行われ、緻密な検討により常に改善し乍ら努力すれば、一般レベルより一段高い水準で有利な経営が進められると確信します。これは内容的には異なっても養鶏関係事業全般に共通することと思います。

次に協力であります。養鶏は唯の事業より進んで、産業、企業として経営されております。多岐にわたる変化、スピードを伴う資本主義経済の中で養鶏業が安定した地位を確保するには大きく眼を開いてみると、協力こそ最も要求されるものでありましょう。協調、協力はそれぞれがもつ能力を更に一層高め、組織的な団結の力は想像以上の大きな力を発揮するものであります。養鶏界においても各自各部が大乗的考えのもとにお互に信頼しあい乍ら手を取りあって、横の組織をがっちり組み、共存共栄的に進み、また養鶏関係業者、組合、団体、県等の縦の組織を固め、その結果、それぞれの段階において経緯が整

岡山畜産便り 1965.01

備され、協力態勢ができ上がれば偉大な力をもつこととなります。

幸い、当県には岡山県養鶏協会、岡山県孵卵振興会が設立されています。これらが更に一層強化され、岡山県養鶏の振興の原動力、推進力となって行くことが切望されると共に、養鶏家、養鶏関係業者、団体、県ともどもにそれぞれ一丸となって、今日の危機をのりこえ希望をもって本県の養鶏を更に前進させたいものであります。